

◎幣原喜重郎について

無所属 戸田議員

Q 1 : 「門真の偉人＝幣原喜重郎（しではら きじゅうろう）」と言えば、降伏直後の総理大臣で、「戦争放棄」の強い情熱を持って平和憲法作定にあたった人として有名だが、実はそれだけでなく、敗戦直後に日本人自身の手で戦争の原因と実相を調べるための調査会＝「大東亜戦争調査会」というものを設置した人でもあった、という業績に、最近照明が当てられる新聞記事があり、私が 9/16 文教委所管事項質問でそれを取り上げたところである。

幣原喜重郎氏のそれらの業績について、市が現在認識しているところを少し詳しく目に紹介してもらいたい。

幣原喜重郎氏の業績についてであります。戸田議員ご質問にもありました、とりわけ「大東亜戦争調査会」の設置につきましてご答弁申し上げます。

幣原平和財団が 1955 年（昭和 30 年）に発行した「幣原喜重郎」や大東亜調査会に関する論考によりますと、当該調査会は、「敗戦に関して犯した過ちを繰り返さないこと」を目的とし、「敗戦・戦争の原因と実相の徹底的な調査」のため、幣原喜重郎内閣が 1945 年（昭和 20 年）11 月に設置されたものでございます。

本調査会の設置経緯につきましては、戦争責任の調査と追及を求める世論を受け、敗戦原因の調査の必要性を指摘していた幣原内閣総理大臣が、「敗戦ノ原因及実相調査ノ件」として閣議決定し、設置され、総裁には幣原内閣総理大臣自らが就任されたものでございます。また、調査方針として、戦争の起こった原因を世界史的立場に立って究明すること、戦争経過の実情を明確にし、敗戦に導いた真因を追求すること、降伏後の日本がどのような困難に直面し、処理したかを明らかにするなどして、戦争の顛末について正確な歴史的資料を後世に遺し、恒久的な平和日本を建設するため基本的な指標を導き出すものであることとされたところでございます。

しかしながら、連合国最高司令官の諮問機関である対日理事会において、ソ連代表が戦争の原因調査や戦争扇動者の処罰という任務は極東国際軍事裁判所に属していることや、元軍人などが委員として調査に携わっていることを批判するとともに、委員会の解散を勧告したことなどにより、対日理事会での意見対立の長期化を懸念した GHQ の意向に応じ、日本政府は 1946 年（昭和 21 年）8 月に調査会の廃止を内定し、9 月に廃止されたものでございます。

Q 2 : 幣原喜重郎の業績の啓発継承を市が積極的に行なう事が、門真の市民や子ども達に誇りを生み、「門真市を愛する気持ち」をより育み、門真市の品格と魅力向上にも寄与するし、「立憲主義の民主主義国家の主権者」としての自覚の発揚にも寄与する、と私は確信するが、自民党員ではあっても、園部市長もきっと同じ認識を持っておられると思うが、どうか？

郷土の偉人であり、門真市の誇りである元内閣総理大臣幣原喜重郎氏の業績を、子どもからお年寄りまで、広く市民に伝えることは、本市に対して誇りと愛着を持つことができる環境の醸成につながるものであり、かつ、大変重要なことであり、門真市の品格と魅力の向上にも寄与するものと考えております。

Q 3 : 今年度内にでも、新たに認識された業績の紹介を中心とした講演会などの啓発企画が出来るよう、園部市長の気持ちを示してもらいたいがどうか？ 今後はせめて年に1回は幣原喜重郎に関連する市民向け行事をやるようにする、例えば「幣原喜重郎平和フェスタ」とか「幣原喜重郎平和憲法祭り」とか「幣原喜重郎の業績展示講演会」をやったり、「平和憲法制定首相のまち＝門真市」を「門真市の魅力」として打ち出したりする事が良いと思うが、園部市長はどう考えるか？

これまでも、歴史資料館におきましては、2000年（平成12年）に特別展を開催し、同年から常設展として郷土の偉人の生い立ちに焦点をあてた幣原家の足跡を伝えてまいりました。

また、2013年（平成25年）に発行した門真市暮らしの便利帳では、門真が誇る偉人としてその業績を紹介しており、講演会につきましては、2002年（平成14年）に幣原家の方を招き講演会を開催しているところでございます。

今後におきましては、郷土の偉人である幣原喜重郎氏を多くの市民にも知っていただけるよう、業績を伝える新たな取組につきまして、検討してまいりたいと考えております。